

美幌町における景気動向調査報告書 ＜ 第Ⅲ四半期 ＞

美幌商工会議所

I . 調 査 要 領

1. 調査時点及び調査対象期間

- (1)調査時点 令和6年10月
- (2)調査対象期間 令和6年7～9月期実績及び令和6年10～12月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象及び調査方法

- (1)調査対象
会員事業所の中から小売業35社、卸売業10社、建設業20社、製造業20社、サービス業35社(飲食15社・飲食以外20社)の5業種120社を対象とした。
- (2)調査方法
調査対象に対し調査票を送付し、FAX または訪問による聴取により回答を頂いた。

3. 業種別回答状況(事業所数)

	対象企業数	回答企業数	回 答 率
小 売 業	35事業所	33事業所	94.3%
卸 売 業	10事業所	8事業所	80.0%
建 設 業	20事業所	19事業所	95.0%
製 造 業	20事業所	16事業所	80.0%
飲 食 業	15事業所	12事業所	80.0%
サービス業	20事業所	16事業所	80.0%
合 計	120事業所	104事業所	86.7%

- 本調査結果中の「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(好転・上昇)企業割合から減少(悪化・低下)企業割合を差引いた値(景気動向指数)を示す。

Ⅱ. 概況 《全体の動き》

令和6年度第Ⅲ四半期(7月～9月)の美幌町における業況は、全業種で見ると前年同期比で「好転した」と答えた企業割合が 20.2%、「悪化した」と答えた企業割合が 27.9%、「好転」から「悪化」を差引いたD・I値は△7.7となっており、前期(△11.6)より 3.9 ポイントの上昇となり、回復傾向となった。

来期(10月～12月)業況の見通しを全業種で見ると「好転する」と答えた企業割合が 17.3%、「悪化する」と答えた企業割合が 35.6%であり、D・I値△18.3となっており、今期からは 10.6 ポイント落ち込んでいくと予測されております。

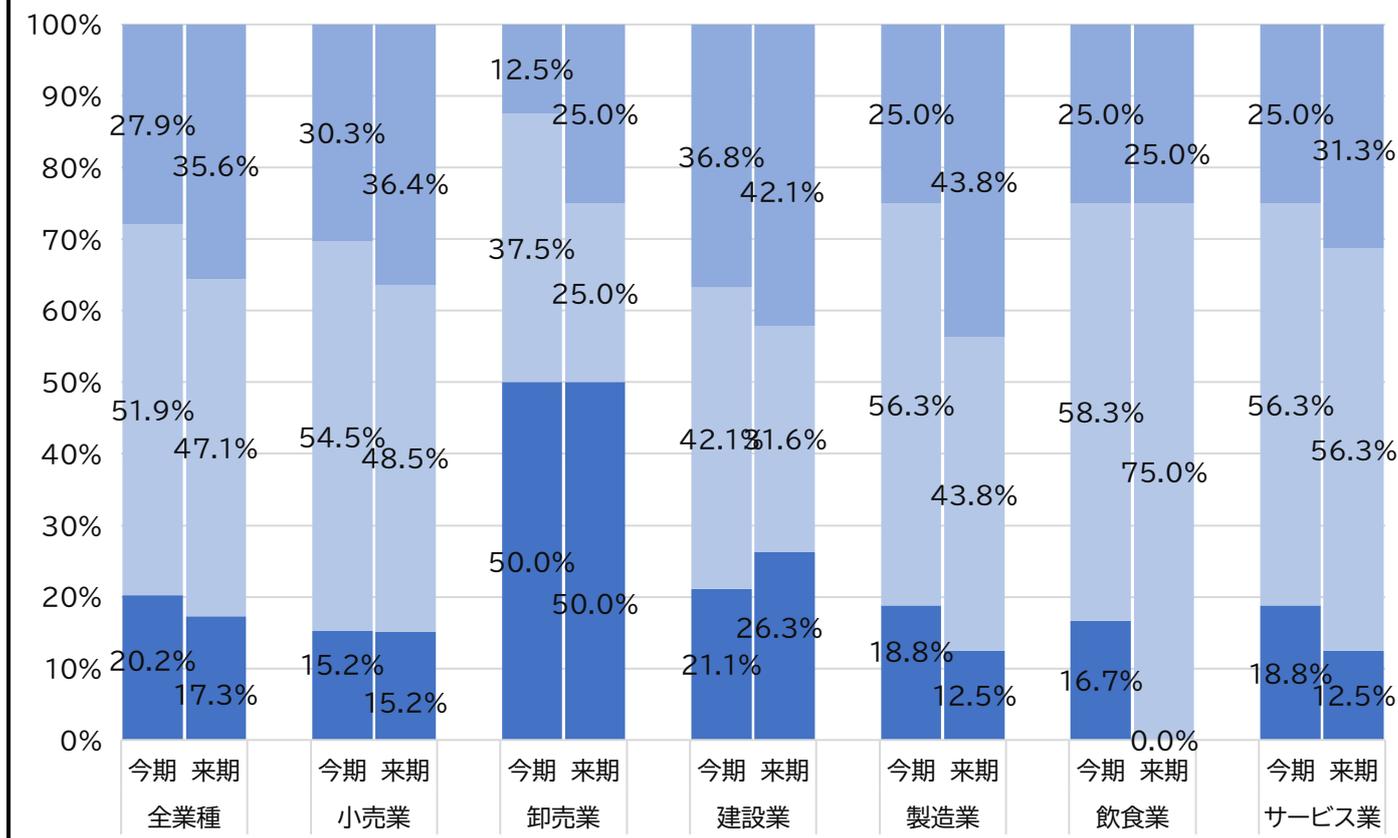
経営上の課題としては各業種において、依然として資材・商品等の価格高騰による「諸経費増加」が大きな課題となっており、次いで各業種様々な職種の「人材不足」、「得意先(客足)減少」が経営課題として数多く回答ございました。

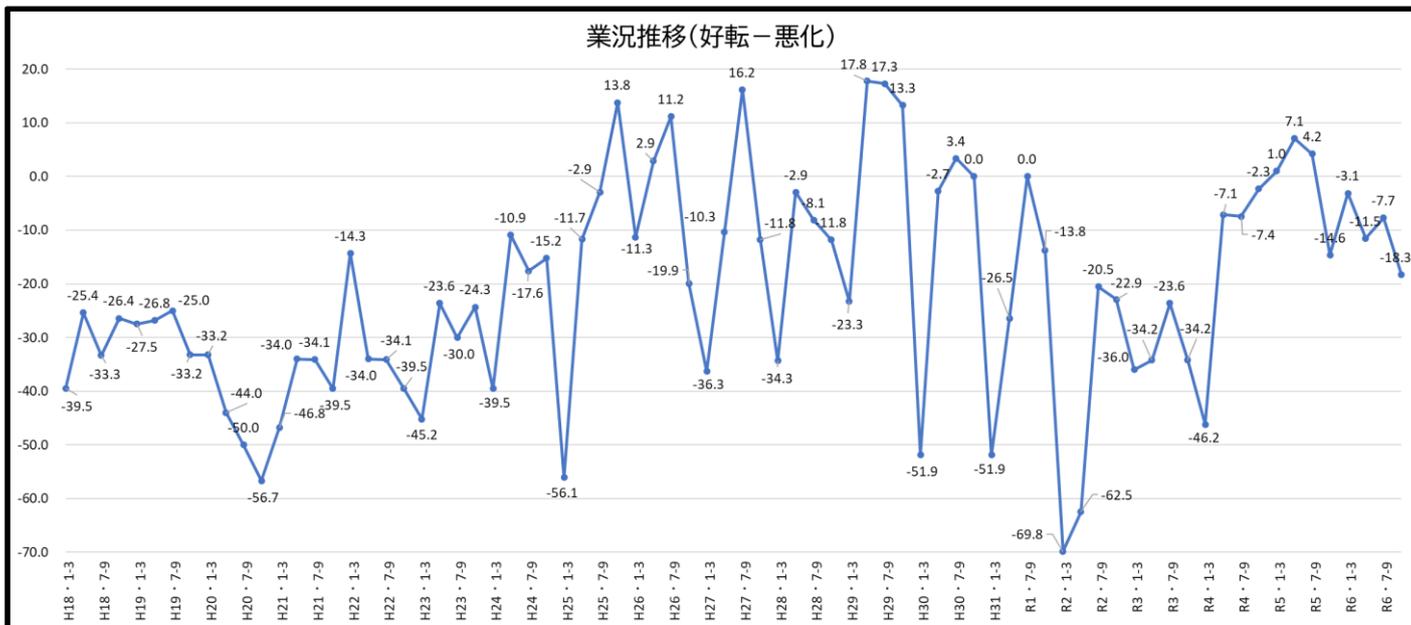
業種別DI

業況(%)	今期(令和6年7月～9月)の実績 (前年同期比)				令和6年10月～12月の見通し (今期比)			
	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値
全業種	20.2	51.9	27.9	-7.7	17.3	47.1	35.6	-18.3
小売業	15.2	54.5	30.3	-15.2	15.2	48.5	36.4	-21.2
卸売業	50.0	37.5	12.5	+37.5	50.0	25.0	25.0	+25.0
建設業	21.1	42.1	36.8	-15.8	26.3	31.6	42.1	-15.8
製造業	18.8	56.3	25.0	-6.3	12.5	43.8	43.8	-31.3
飲食業	16.7	58.3	25.0	-8.3	0.0	75.0	25.0	-25.0
サービス業	18.8	56.3	25.0	-6.3	12.5	56.3	31.3	-18.8

今期業況と来期業況の比較

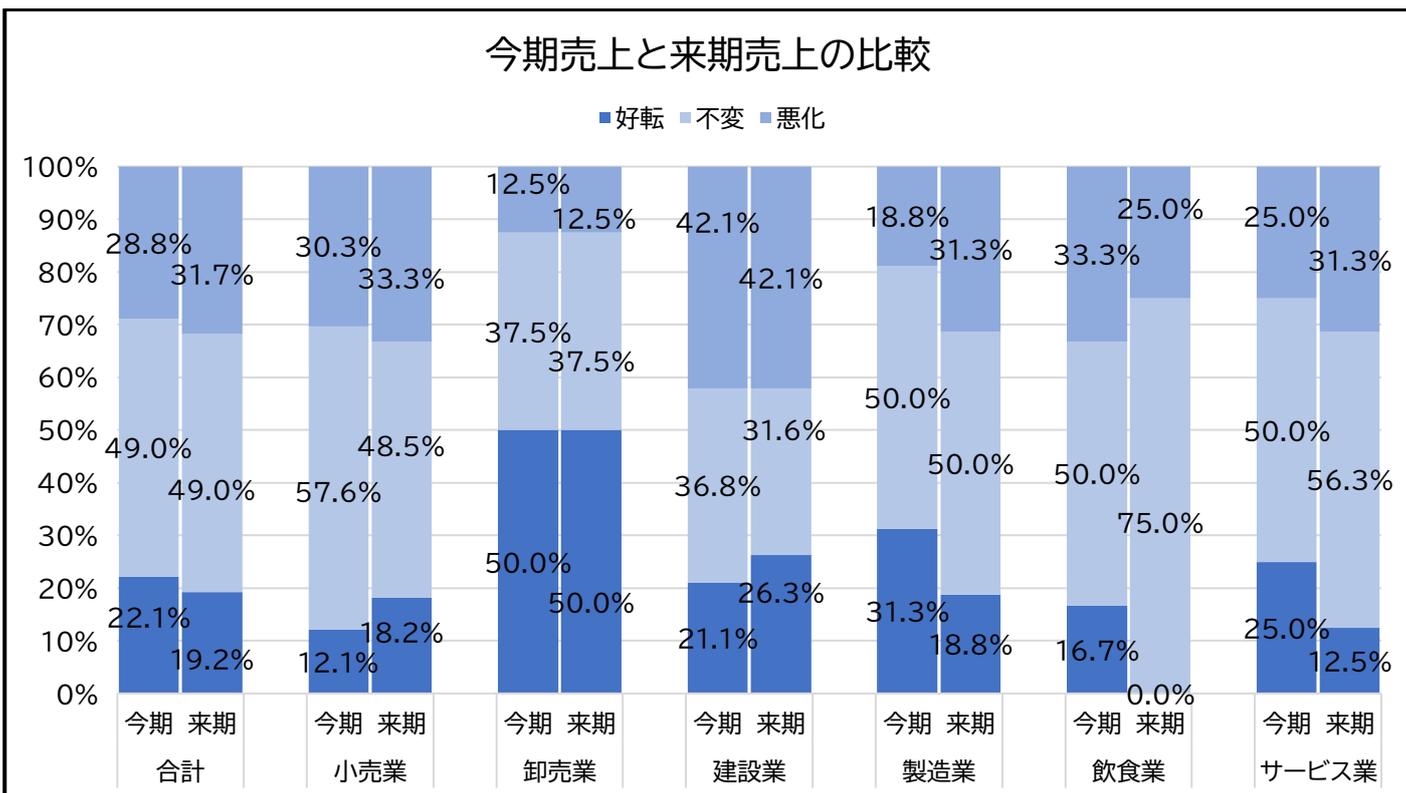
■増加 ■不変 ■減少





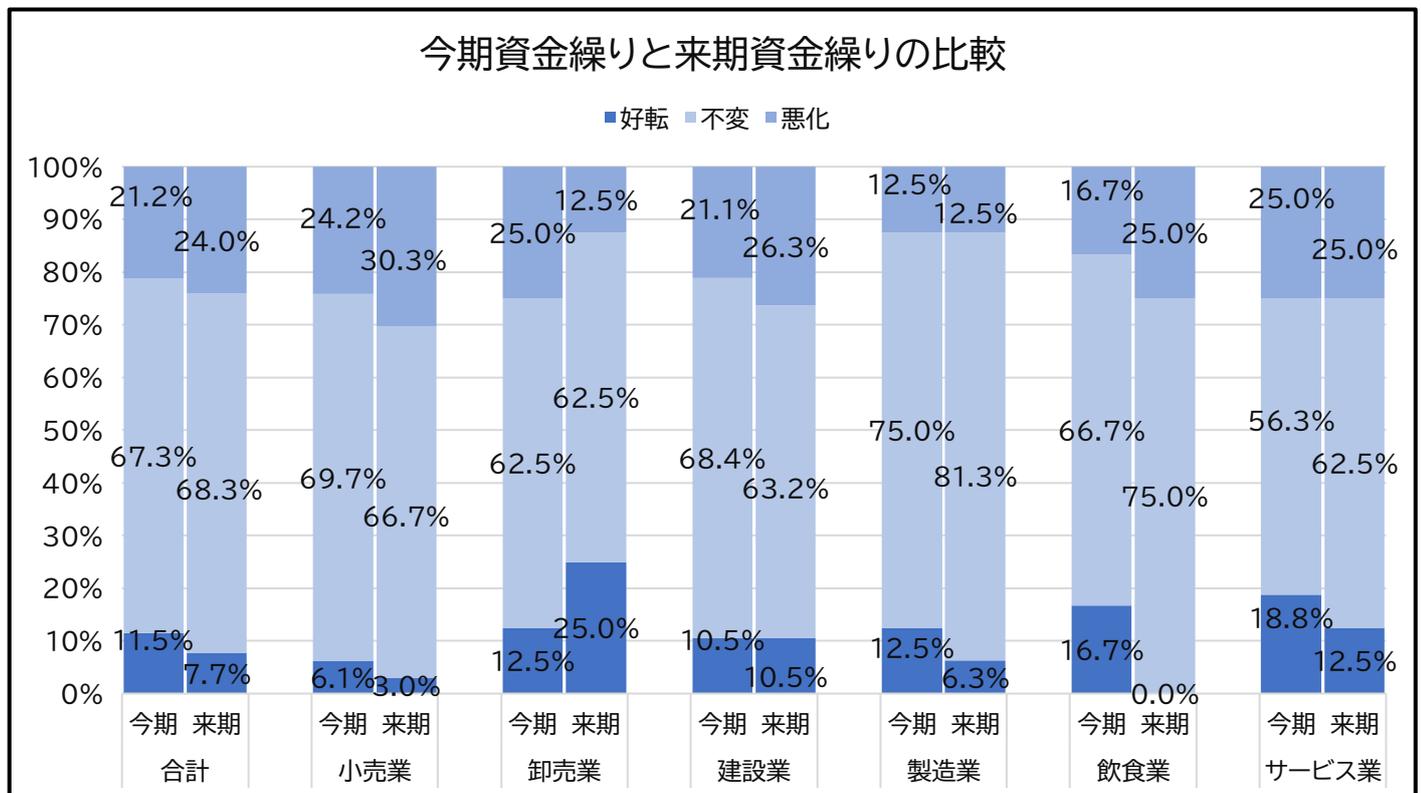
売上高(%)	今期(令和6年7月~9月)の実績 (前年同期比)				令和6年10月~12月の見通し (今期比)			
	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値
全業種	22.1	49.0	28.8	-6.7	19.2	49.0	31.7	-12.5
小売業	12.1	57.6	30.3	-18.2	18.2	48.5	33.3	-15.1
卸売業	50.0	37.5	12.5	+37.5	50.0	37.5	12.5	+37.5
建設業	21.1	36.8	42.1	-21.0	26.3	31.6	42.1	-15.8
製造業	31.3	50.0	18.8	+12.5	18.8	50.0	31.3	-12.5
飲食業	16.7	50.0	33.3	-16.6	0.0	75.0	25.0	-25.0
サービス業	25.0	50.0	25.0	± 0.0	12.5	56.3	31.3	-18.8

※建設業は「完成工事高」、製造業は「生産高」を示す。



資金繰 (%)	今期(令和6年7月~9月)の実績 (前年同期比)				令和6年10月~12月の見通し (今期比)			
	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値
全業種	11.5	67.3	21.2	-9.7	7.7	68.3	24.0	-16.3
小売業	6.1	69.7	24.2	-18.1	3.0	66.7	30.3	-27.3
卸売業	12.5	62.5	25.0	-12.5	25.0	62.5	12.5	+12.5
建設業	10.5	68.4	21.1	-10.6	10.5	63.2	26.3	-15.8
製造業	12.5	75.0	12.5	± 0.0	6.3	81.3	12.5	-6.2
飲食業	16.7	66.7	16.7	± 0.0	0.0	75.0	25.0	-25.0
サービス業	18.8	56.3	25.0	-6.2	12.5	62.5	25.0	-12.5

	今期(令和6年7月~9月)の実績 在庫水準 (%) (前年同期比)				今期(令和6年7月~9月)の実績 採算 (%) (前年同期比)			
	好転	不変	悪化	DI値	好転	不変	悪化	DI値
全業種	10.7	60.7	28.6	-17.9	13.5	43.3	43.3	-29.8
小売業	6.3	68.8	25.0	-18.7	9.1	48.5	42.4	-33.3
卸売業	25.0	75.0	0.0	+25.0	25.0	37.5	37.5	-12.5
建設業	-	-	-	-	15.8	36.8	47.4	-31.6
製造業	12.5	37.5	50.0	-37.5	12.5	43.8	43.8	-31.3
飲食業	-	-	-	-	8.3	50.0	41.7	-33.4
サービス業	-	-	-	-	18.8	37.5	43.8	-25.0



< 業 種 別 の 動 き >

1) 小 売 業 売 上 高

前年比で「好転した」と答えた企業割合が 12.1%、「悪化した」と答えた企業割合が 30.3%、D・I値 Δ 18.2 になっており、来期の見通しをみると「好転する」と答えた企業割合が 18.2%、「悪化する」と答えた企業割合が 33.3%、D・I値 Δ 15.1 になっており、前期(Δ 22.6)から依然としてマイナス値が続いていますが、徐々に回復傾向となっており、来期についても回復傾向が続いていくと予測されます。

資 金 繰

前年比で「好転した」と答えた企業割合は6.1%、「悪化した」と答えた企業割合が24.2%、D・I値 Δ 18.1、来期の見通しをみると「好転する」と答えた企業割合が 3.0%、「悪化する」と答えた企業割合が 30.3% D・I値 Δ 27.3 になっており、資金繰りについては売上高に比例せず前期(Δ 6.5)から下降傾向となっており、来期についても下降傾向が続いていくと予測されます。

2) 卸 売 業 売 上 高

前年比で「好転した」と答えた企業割合が 50.0%、「悪化した」と答えた企業割合が 12.5%、D・I値 37.5 になっており、来期の見通しをみると「好転する」と答えた企業割合が 50.0%、「悪化する」と答えた企業割合が 12.5%、D・I値 37.5 になっており、前期(\pm 0.0)から大きく回復傾向となりました。さらに来期においても回復傾向が続くと予測されます。

資 金 繰

前年比で「好転した」と答えた企業割合は 12.5%、「悪化した」と答えた企業割合が 25.0%、D・I値 Δ 12.5、来期の見通しをみると「好転する」と答えた企業割合が 25.0%、「悪化する」と答えた企業割合が 12.5%、D・I値 12.5 になっており、前期(Δ 12.5)から横ばいが続いているものの、売上高の好転による影響か、来期については資金繰りもプラス値となっており、回復傾向にあり、明るい兆しが見えて参りました。

3) 建 設 業 完 成 工 事 高

前年比で「好転した」と答えた企業割合が 21.1%、「悪化した」と答えた企業割合が 42.1%、D・I値 Δ 21.0 になっており、来期の見通しをみると今期同様に「好転する」と答えた企業割合が26.3%、「悪化する」と答えた企業割合が42.1%、D・I値 Δ 15.8 になっており、前期(Δ 52.9)と比べると、依然としてマイナス値ではありますが大きく回復傾向となりました。来期においても未だプラス値には転じていることはありませんが、緩やかではありますが回復傾向となっていくと予測されます。

資 金 繰

前年比で「好転した」と答えた企業割合は 10.5%、「悪化した」と答えた企業割合が 21.1%、D・I値 Δ 10.6、来期の見通しをみると「好転する」と答えた企業割合が 10.5%、「悪化する」と答えた企業割合が 26.3%、D・I値 Δ 15.8 になっており、資金繰りについても工事高に比例し、回復傾向となりましたが、来期においては工事量が見込めず、依然として厳しい状況が続くと予測されます。

4)製造業 生産高

前年比で「好転した」と答えた企業割合は 31.3%、「悪化した」と答えた企業割合が 18.8%、D・I値 12.5、来期の見通しをみると「好転する」と答えた企業割合が 18.8%、「悪化する」と答えた企業割合が 31.3%、D・I値△12.5 となっており、前期(△5.9)から回復傾向となっておりますが、来期は一転してマイナス値へ落ち込んでいくと予測されます。

資金繰

前年比で「好転した」と答えた企業割合は 12.5%、「悪化した」と答えた企業割合が 12.5%、D・I値±0.0、来期の見通しをみると「好転する」と答えた企業割合が 6.3%、「悪化する」と答えた企業割合が 12.5%、D・I値△6.2 となっており、今期資金繰りについても前期(5.9)から緩やかな下降傾向になっており、来期においても生産高の落ち込みに比例して下降傾向になっていくと予測されます。

5)飲食業 売上高

前年比で「好転した」と答えた企業割合が 16.7%、「悪化した」と答えた企業割合が 33.3%、D・I値△16.6 となっており、来期の見通しをみると今期同様に「好転する」と答えた企業割合が 0.0%、「悪化する」と答えた企業割合が 25.0%、D・I値△25.0 となっており、前期(38.5)から一転し大幅な下降傾向となっており、来期においても今期に引き続き下降傾向が続くと予測されます。

資金繰

前年比で「好転した」と答えた企業割合は 16.7%、「悪化した」と答えた企業割合が 16.7%、D・I値±0.0、来期の見通しをみると「好転する」と答えた企業割合が 0.0%、「悪化する」と答えた企業割合が 25.0%、D・I値△25.0 となっており、資金繰りについても売上高に比例し前期(7.7)から一転し、下降傾向にあり、来期においても今期に引き続きさらに下降傾向が続くと予測されます。

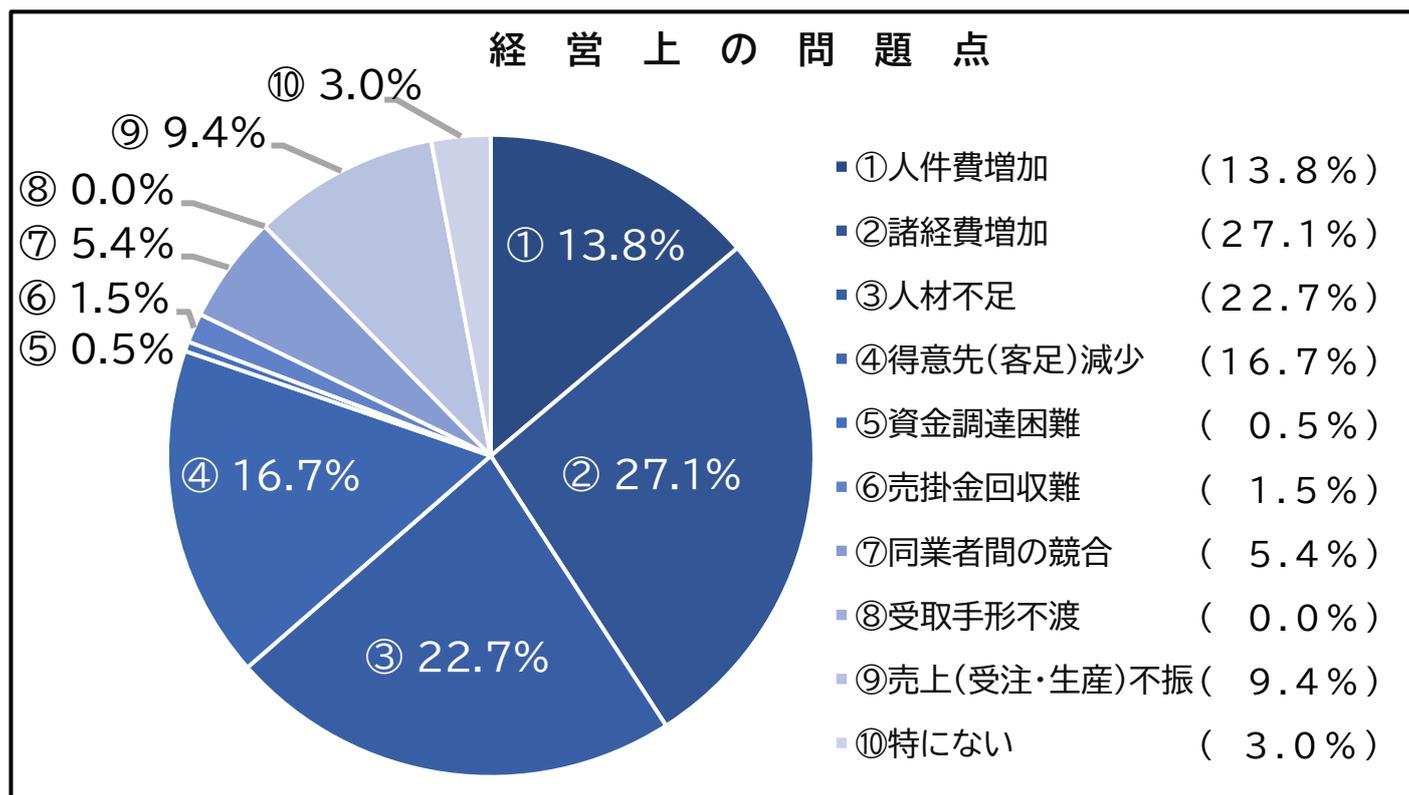
6)サービス業 売上高

前年比で「好転した」と答えた企業割合が 25.0%、「悪化した」と答えた企業割合が 25.0%、D・I値±0.0 となっており、来期の見通しをみると今期同様に「好転する」と答えた企業割合が 12.5%、「悪化する」と答えた企業割合が 31.3%、D・I値△18.8 となっており、前期(16.7)から一転して下降傾向となっており、来期においても引き続き厳しい状況が続いていくと予測されます。

資金繰

前年比で「好転した」と答えた企業割合は 18.8%、「悪化した」と答えた企業割合が 25.0%、D・I値△6.2、来期の見通しをみると「好転する」と答えた企業割合が 12.5%、「悪化する」と答えた企業割合が 25.0%、D・I値△12.5 となっており、資金繰りについても、売上と比例して厳しい状況が続いており、来期においても売上が見込めない中、厳しい状況が続くと予測されます。

< 経営上の問題点 >



< 業界の問題点・要望 >

【小売業】

- ・薬の入荷状況は改善されず、在庫管理が困難です。
- ・コロナ以降の減客、物価高による買い控え
- ・客離れが懸念されるため、価格を据え置いているうえに、諸経費の高騰により薄利になってきている。
- ・原価上昇分が価格に転嫁しづらい
- ・人材不足(取引先の営業マンの能力不足)
- ・売上がコロナ前よりまだ90%、商品が値上がりしているのを含めコロナ前より20%くらい低い
- ・有給消化が当たり前の時代、年(20日有給×20名)=400日

【卸売業】

- ・経費上昇、高額商品低迷

【建設業】

- ・受注減(仕事が少ない)

【製造業】

- ・各所での地元業者の積極的な利用
- ・技術者の人材不足、作業員の激減
- ・製造機械導入の補助金等の情報取り組み
- ・仕事量の減少
- ・取扱商品の殆どが公共事業需要の為、価格は発注機関により年度毎の4・10月に決定される
同業事業者の組合(網走管内及び全道)にて価格の改定を陳情要請しているが、原材料価格高騰に見合う分の価格改定には至っていないのが現状である

【飲食業】

- ・物価高にカード決済がふえた為、資金繰りが大変